

(音楽)

## 「自分の思いや意図をもって、豊かに表現できる子どもを育てる音楽科学習指導の研究」

大阪市立春日出小学校 鈴置高弘

### 1.研究主題設定の理由

本校の課題は、学力向上と生活指導の2本柱である。音楽科は、静寂が成立しなければ活動を始めることができない。また、共に演奏するということは、互いを聴き合い、認め合わなければならない。音楽科を極めることは、学習規律の確立、自尊感情の育成、豊かな心の交流ができる集団形成につながる。

従来から行っているKMP（春日出メソッドプロジェクト、『春日出メソッド』の確立を目指すプロジェクト）で子どもたちの基礎・基本の学力を定着させることはもちろんのこととし、「音楽の表現活動を楽しむ」ことを研究の柱とし、音や表現に集中することで、学習規律が確立し、互いを聴き合う集団育成ができ、豊かな心を育む教育活動ができると考える。

また、学校選択制が行われている此花区において、特色ある学校づくりとして、『音楽の学校』として音楽文化を根付かせていく。

### 2.研究の主旨

21世紀になり社会が大きく変化した結果、様々な情報や多種多様な価値観が存在するようになった。こうした世の中を生きる子どもたちにとって、自分に必要な価値を正しく選択する力を身につけることが急務となってきた。子どもたちの考えや思い・願いを表現し、自分の言葉で伝え、話し合う過程を通して、みんなで活動することの大切さやすばらしさを味わう中で望ましい人間関係を構築していく。その望ましい集団活動の中から子ども一人一人が互いに考えや思いを共有し、正しい価値観を学ぶとともに望ましい価値観を身につける必要があると考える。

学校教育においては、基礎的・基本的事項を重視し、確かな学力の定着を図り、生涯にわたる学習の基盤をつくることが求められている。さらに、同世代の仲間との共同生活を通じて、人間性や社会性など豊かな心と健やかな体を育成すること、さらには一人一人の長所を見出し、その個性・能力の伸長を図っていくことが大きな責務である。

音楽科の学習は、表現と鑑賞の多様な活動がその中心となる体験的な学習であり、音や音楽に対する個々のとらえ方や表現の仕方の違いや共通点を認め合いながら感性や豊かな情操を養うところに特長がある。また、歌唱や器楽等の「表現」領域における学習は、児童が自己の役割を自覚して活動に参加するとともに、他者と呼吸を合わせ、音をつなぎ、重ねながら一つの音楽をつくる学習である。すなわち、音楽科学習は、子どもの『人間形成そのものの活動』といえ、人権尊重精神の育成や学ぶ意欲・学ぶ力を向上させるものでもある。

以上のことから、本研究主題に挙げている自分の思いや意図をもって、豊かに表現できる子どもを育てていくための音楽学習を研究していくことは大変意義深い。

この研究において、

- ① 音楽の良さや美しさを感じ取り、自らそれを追求する子
- ② これまでに身につけた基礎的な能力を生かし、自らの思いや願いを音楽で表現することに喜びを得ようとする子
- ③ 教え合い、学び合い、高め合う音楽活動をすすんで行き、思考力や判断力を場面に応じて発揮できる子

といった子ども像を目ざした。

### 3.研究の概要

研究主題に迫るため、研究の視点を以下のように設定した。

〈視点 1〉

表現の活動を通して、基礎的・基本的な音楽的素養を高め、自らの感性を磨くとともに、個と集団を生かした主体的な音楽学習を創造する。

- ・ 歌唱、器楽における基礎・基本を習得し、自分の思いや意図を言葉や音楽で表現できるようにする。
- ・ 教え合い、学び合い、高め合う集団を育成する。

※視点 1 に迫るため、学習カードを活用するようにする。

※「歌唱」「器楽」「音楽づくり」「鑑賞」の領域は限定しないものとする。

※授業参観コメントカードを活用する。

〈視点 2〉

文化としての多様な音楽のよさに触れ、音楽の美しさに感動し迫及する心を育てるとともに、生涯を通して音楽を愛好する心情を育てる。

- ①「表現」と「鑑賞」が一体となった場を設け、異学年や他校の演奏を聴き合うことで表現の幅を広げる。

- ・ 6 月 歌声を聴き合おう[歌声交流会](全学年)
- ・ 9 月 鼓笛パレード(5 年)
- ・ 11 月 ふれあいコンサート出演(6 年)
- ・ 2 月 『春音』での校内音楽交流(全学年) ※土曜授業

- ② 音楽集会を行う。

- ・ 1 学期に 1 回、2 学期に 1 回、3 学期に 1 回の年間 3 回の全校集会を実施する。
- ・ 「毎月の歌」を CD にして各学級に配り、給食の時間に流し、一日のどこかの時間に各学級で歌ったりするようにする。
- ・ 音楽集会の内容は、全校で楽しく歌ったり、リズム遊びをしたりする内容とする。

#### 4. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

研究主題を受け、子どもたちが「自分の思いや意図をもって、豊かに表現する音楽科学習」の創造ができるよう授業研究会・研修会等での実践を積み重ねてきた。その結果、次のような成果が明らかになった。

- 音楽科の基礎・基本を習得し、自分の思いや意図を言葉や音楽で表現できた。
- 表現を工夫する場面や表現を聴き合う場面など、学習の各場面で学びを深める教え合いや高め合いが行われ、確かなめあてをもって主体的に学習し、音楽表現を聴く力や歌唱、器楽、音楽づくりといった表現力、そして鑑賞に取り組む力が育った。
- 「表現」と「鑑賞」が一体となった場で、異学年の演奏を聴き合い、表現の幅を広げた。

(2) 今後の課題

音楽科におけるさらなる個の技能の定着や高まりには、まだ時間を要する。また、音楽を愛好する心情を高めるために、全校的な取り組みでの継続的な指導を考えていく必要がある。

今後、楽器や ICT の活用のしかた、子どもがさらに興味のもてる場の設定のしかたの工夫を含め、今年度の研究を生かすことで、子どもが互いに高め合い輝きながら音楽科学習に取り組めるようにしていく。そして、学校の教育活動全体の活性化を図り、子どもが生き生きとした学校生活を送ることができるようにしていく。